

vol.45-4 (通算 505号)

2015年7月号

# やどかり

2015年7月15日発行  
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可  
発行人 公益社団法人やどかりの里  
代表者 土橋 敏孝  
〒337-0043  
さいたま市見沼区中川 562

TEL 048-686-0494

FAX 048-686-9812

定価 50円(含会費)

## やどかりの里 45周年記念式典開催

### ごくあたりまえの生活は平和の中にこそ

1970年に活動を開始したやどかりの里は、創立45周年を迎えた。2015年6月13日、やどかりの里45周年記念式典と祝賀会をパレスホテル大宮にて開催した。実行委員長は理事の山田清志が務めた。当日は、清水勇人さいたま市長をはじめ、やどかりの里を支えて下さっている方々や関係機関、法人会員など、200余人の出席があった。

記念式典の冒頭、土橋代表理事より、感謝の意と併せて障害のある人にとって厳しい社会情勢に触れ、当事者が主人公になれる社会づくりを進めていきたいと挨拶があった。

来賓の方を代表して、松澤勝みんなねっと副理事長、斎藤なを子きょうされん常務理事、鴻巣泰治埼玉県精神保健福祉センター社会復帰部部长から励ましと心温まる言葉をいただいた。

また、これまでのやどかりの里の活動へのご支援に感謝の意を込めて、協力団体・個人8組に感謝状をお渡しした。

次に行われたトークセッション「障害者権利条約とやどかりの里」では、ゲストスピーカーに日本障害者協議会代表の藤井克徳さんを迎え、3人のメンバーの体験を中心に、やどかりの里の実践と障害者権利条約を重ね合わせながら語りあった。22年間もの入院の経験と今の幸せな暮らしを語った辰村泰治さんの体験について、藤井さんは、社会的入院は障害者権利条約19条に反し、重大な人権侵害であると指摘した。また加藤康士さんはやどかりの里の人たちとの交流の中で自信を取り戻し、回復していく過程を語った。それを受け、藤井さんは、本人を取り巻く環境に障害が

潜んでおり、その環境との関係で障害が重くも軽くもなることを改めて意味づけした。最後に、これからの取り組みでもある農福連携について、農を通じた地域実践の夢が語られた。そこで働く渡部亮太さんは、農に取り組む中で、畑の土の分け隔てなさや、信頼できる人に囲まれて好きなことに無心に取り組めることに感謝していると語った。藤井さんは、障害者権利条約を世界共通の楽譜に例え、地域の人たちと共にやどかりの里らしいハーモニーを奏でて欲しいと期待を込めた。

最後に藤井さんは、障害者権利条約は平和の中でこそ映えると、第2次世界大戦時にドイツで実行された「T4計画」について触れた。「T4計画」により、悪い遺伝子を持つとされた障害のある人約30万人が虐殺されたという。国の政策を、これくらいならと見逃すことで、その内、手も足も出なくなってしまったという、当時ドイツの牧師であった「マルティン・ニーメラー」の言葉を引用し、今の日本の状況と似ていのではないかと投げかけた。戦争は大量の障害者をつくり出す最大の悪であるという国連決議にも触れ、平和を守ることを意味を語り、締めくくられた。

戦後70年を迎えるこの夏、障害のある人の暮らしの前提となる平和が揺らぎつつある。やどかりの里も45周年を節目に、平和と障害のある人の生きる権利が守られる社会の実現に向けて、これまでの実践の確かさを胸に、更なる一步を踏み出していきたい。